

2013年度 日本文化人類学会

第4回 理事会 議事録

日時：2013年7月20日（土）14:00～17:40

会場：上智大学 四谷キャンパス2号館2-630a

出席者：小泉、赤堀、綾部、池田、上杉、小田、春日、亀井、岸上、栗本、高倉、棚橋、松田、山本

委任状提出：窪田、佐々木、清水、曾我、出口、中谷、三尾、森山、和崎

〔承認事項〕

1. 2013年度第3回理事会議事録
 - ・2013年度第3回理事会議事録（案）を承認。
 - ・2013年度第1回評議員会議事録（案）を7月9日に評議員会メーリングリストで回覧した結果、期限までに異議が無かったため承認とみなすことを報告。
 - ・2013年度総会議事録（案）を議長および議事録確認者2名に発送済みであることを報告。
2. 新入会員（11名）につき、総務会で入会を承認したことを報告の上で事後承認。
3. シンポジウム等の学会後援について
 - ・神奈川県国際常民文化研究機構より「渋沢敬三の資料学—日常史の構築—」を共通テーマとする同機構主催の第5回国際シンポジウム「庶民・日常への眼差し—世界常民学への道—」（2013年12月7日開催）および公開研究会「ビジュアル資料と渋沢敬三—アチックフィルム・写真からの展望（仮題）」（2013年12月8日開催）の後援依頼があり、総務会で承認したことを報告の上、事後承認。
 - ・国立民族学博物館より人間文化研究機構第23回公開講演会・シンポジウム「高齢期のウェルビーイングと多様な住まい方」（2014年3月8日開催）の後援依頼があり、総務会で承認したことを報告の上、事後承認。

〔報告事項〕

1. 会長報告
 - ・第47回研究大会時に、今後の研究大会幹事校について交渉を行ったことを報告。
2. 庶務理事報告
 - ・第4回育志賞学会推薦候補者の受付を5月20日消印有効にて締め切り、選考を実施し、結果を応募者に通知したことを報告。
 - ・第3回三島海雲学術賞の学会推薦公募案内をJASCA-INFO及び学会HPで告知したことを報告。7月19日学会事務局宛メール必着にて締め切り、7月20日現在応募者無しであることを報告。次年度に同様の公募が実施された場合には、自薦以外に他薦での公募も可とすることとした。
 - ・第26期評議員選挙管理委員会の編制が完了したこと、第1回選挙管理委員会を10月12日に開催予定であることを報告。
 - ・各種委員会の構成表について変更点を説明。学会50周年記念事業準備委員会については別表扱いとすることを報告。
 - ・本年3月に回答した日本学術会議アンケート「東日本大震災にかかわる協力学術研究団体の活動の調査（第2回）」の集計結果と総括が報告書として公開されたことを報告し、同報告書を回覧。
3. 広報理事報告
 - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき9件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。
 - ・第48回研究大会準備委員会よりメールアドレスとサブドメインの発行依頼があり準備中であることを報告。
 - ・課題研究懇談会の組織アドレスによるJASCA-NET投稿希望があり、委員会で検討の結果、JASCA-NETは会員の登録個人アドレスによる会員同士の意見交換の場であることから、組織アドレスによる投稿は受け付けない旨回答を行ったことを報告。今後、地区研究懇談会や課題研究懇談会等の学会が正式に

認めている組織のアドレスによる投稿希望が複数寄せられた場合には、その都度理事会に諮ることとした。

4. 各種委員会報告

- ・『文化人類学』編集委員会：78巻2号の進捗状況を報告。
- ・国際連携委員会：欠席の中谷理事に代わり小泉会長より、WCAAより加盟学会に活動報告の提出要請があり本学会の活動報告書も提出したことを報告。なお、提出された活動報告書は既に配信されており、本学会HPにも掲載予定であることを報告。
- ・民博連携委員会：民博と本学会間でシンポジウム等の後援や会場提供等の便宜供与の依頼を行う際の双方向的な手続きの簡素化（提出書類の簡素化、民博館長公印の省略）について民博側連携委員と協議の上原案を作成し、総務会の審議を経て双方向的な手続きの簡素化案を承認。
- ・学会歴史委員会：民博へ映像記録に関する依頼書「日本文化人類学会寄贈歴史映像資料(DVD)の取り扱いについてのお願い」を提出したことを報告。インタビュー映像の中で公開に適さない映像については編集を行うことを確認。また、神奈川大学日本常民文化研究所における閲覧・公開については改めて交渉中であることを報告。
- ・研究大会運営検討委員会・研究発表査読委員会：第48回研究大会へ向けて実質的な準備が開始されたことを報告。
- ・学会賞選考委員会：委員会において、新たな賞の創設等については総務会が基本方針を検討するのが妥当であること、また学会賞の創設から10年未満であるため早急な見直しは慎重にすべきであるとの見解が出されたことを報告。今期委員の任期満了後に学会賞選考に係る要検討点をとりまとめて提示する予定であることを報告。
- ・次世代育成セミナー実施運営委員会：欠席の森山理事に代わり棚橋理事より、2013年度次世代育成セミナー西日本会場としての使用に係る「国立民族学博物館名義（協力）使用許可願」を民博へ提出したことを報告。

5. その他

- ・山本理事より、人文社会科学系諸学会の男女共同参画連絡会の設立準備会が立ち上がったこと、各学会理事会における連絡委員の設置依頼が検討されていることが報告された。本件については正式な書面が学会に届いた後に検討することとした。

【審議事項】

1. 日本文化人類学会「課題研究懇談会」設置規則の改訂について

- ・担当理事より、日本文化人類学会「課題研究懇談会」設置規則の改訂案が提出され、審議の結果承認された。改訂部分は下表の通り。

改訂前	改訂後
(設置申請) 第4条 課題研究懇談会の新規の設置にあたっては、設置申請書に登録メンバー20名以上の名簿を添えて会長宛に提出しなければならない。課題研究懇談会の登録メンバーは、原則として会員とするが、その数が登録メンバー総数の <u>4分の1</u> 以内であるという条件の下、非会員も登録することができる。ただし、課題研究懇談会の代表世話人は会員でなければならない。申請に当たっては、所定の設置申請書および登録メンバー名簿を提出すること。	(設置申請) 第4条 課題研究懇談会の新規の設置にあたっては、設置申請書に登録メンバー <u>15名</u> 以上の名簿を添えて会長宛に提出しなければならない。課題研究懇談会の登録メンバーは、原則として会員とするが、その数が登録メンバー総数の <u>3分の1</u> 以内であるという条件の下、非会員も登録することができる。ただし、課題研究懇談会の代表世話人は会員でなければならない。申請に当たっては、所定の設置申請書および登録メンバー名簿を提出すること。

※下線部分を変更

2. 課題研究懇談会の新規募集について

- ・担当理事より、日本文化人類学会2014年度「課題研究懇談会」応募要項(案)が提出され、審議の結果、文言調整の上承認された。承認された応募要項はJASCA-INFOと学会HPを通じて会員に周知することを確認。

- ・亀井理事から会員間に「毎年の新規募集実施の希望」の声があるとの情報があり、意見交換の結果、6年程度は現行の募集頻度を維持した上で活動を見守ることとした。
3. 『文化人類学』の査読方針について
- ・松田理事より、特集原稿に対するプレ査読の実施及び査読・判定、再査読の上限の設定、投稿カテゴリー「研究展望」(Research Review)の新設に向けた準備作業について提案があり、意見交換がなされた。今回の議論を踏まえ、委員会で査読規定、寄稿規程の改訂案を作成し次回以降の理事会に諮ることとした。
 - ・『文化人類学』編集委員会内に特集主任および特集主任補佐の役職を設けることが承認された。今期は高倉理事を特集主任補佐に任命することが確認された。
 - ・会員より大学機関リポジトリに搭載された論文(修士論文・博士論文)が『文化人類学』に投稿された場合の扱いについて問い合わせがあったことを受けて、具体的な対応方針を審議した。運用上『文化人類学』の投稿論文は未公開・未刊行であることが原則であり、博士論文等の全文が大学等の機関リポジトリで公表された場合にはこの原則に抵触すると判断することを確認したうえで、執筆者が当該論文の一部を『文化人類学』に投稿予定である場合には大学等の機関リポジトリでの全文公開は行わず要旨公開にとどめるよう要請することを基本方針として承認した。また『文化人類学』掲載論文等利用許諾基準に基づき、学会誌掲載の1年後に全文公開が可能になることを確認した。本件については理事会での議論を踏まえた回答書を編集委員会で作成し、総務会で確認の上、問い合わせのあった会員へ送ることとした。
4. 成果公開における英文比率の向上について
- ・松田理事より、平成26年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「国際情報発信強化」への申請に関する研究成果公開促進費申請検討ワーキンググループの検討結果について報告と提案がなされた。審議の結果、今年募集される平成26年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)について「国際情報発信強化」のカテゴリーで申請することが承認された。また、この承認結果を前提に、JICAの刊行体制・投稿確保の方策・編集体制の改革・編集委員拡充等を通じた英文での成果公開の活性化と国際発信の向上に関する意見交換がなされた。
5. WCAAのconstitution改正に係る投票について
- ・小泉会長より、WCAAのconstitution改正に係る投票について説明があり、審議の結果、本学会が改正案に賛成票を投じることが承認された。
6. 学会50周年記念事業について
- ・小泉委員長より、記念事業に係る助成金の申請・採択状況(村田学術振興財団の採択決定、千葉県と千葉市の国際会議開催補助制度への登録完了)が報告された。また、JNTO(日本政府観光局)の寄附金募集・交付金交付制度の利用申請を行うことが報告された。
 - ・小泉委員長より、日本文化人類学会50周年記念国際研究大会について学会50周年記念事業準備委員会での検討を経た次の事項について報告がなされ、了承された。
 - ①IUAS2014 with JASCAのwebサイトがほぼ完成したことを報告。
 - ②IUAESのマンチェスター大会にて小泉委員長がプレゼンテーションを行う予定であること、大会に参加する学会50周年記念事業準備委員会委員がIUAES2014 with JASCAの案内を配布予定であることを報告。
 - ③募金委員会の事務局長に森山委員が就くこと、現在募金呼びかけ人をリストアップし依頼を進めていることを報告。
 - ④各小委員会の活動状況を報告。
 - ⑤参加登録料についてIUAESの日本国内銀行口座への受け入れを検討していることを報告。
 - ⑥国際連携委員会を通じてWCAAに開催予告を送信済みであることを報告。
 - ⑦国立民族学博物館と国立新美術館との企画展示について展示内容の確定作業が進んでいること、シンポジウムの開催計画も進行中であることを報告。
 - ⑧「国立民族学博物館名義(協力)使用許可願」を提出し、民博に対して日本文化人類学会50周年記念国際研究大会への協力を正式に依頼したことを報告。
 - ⑨学会50周年記念事業準備委員会の決定事項に基づいて、これと齟齬の無いように第48回研究大会第1回サーキュラーを準備中であることを報告。
 - ・日本文化人類学会50周年記念国際研究大会について学会50周年記念事業準備委員会での検討を経た

次の事項について審議を行った結果、承認された。

①第 48 回研究大会と IUAES2014 の両方を併せて JASCA 主催の一つの大会と考え、研究発表は双方を通じて 1 人 1 件とする。ただし、ディスカッサントは別カウントとする。

②会員への寄附依頼の文書を作成し、『文化人類学』78 巻 2 号に挟み込み発送する。

7. その他

- 2014 年度の本学会主催公開シンポジウムについて亀井理事が組織者を務めることが承認された。
- 棚橋理事より、2013 年度朝日賞の候補者推薦依頼を受けたことが報告され、審議の結果、2013 年度朝日賞の候補者推薦を実施することが承認された。候補者については総務会原案が承認された。
- 第 48 回研究大会の演題登録システムについて昨年同様アトラス社の運営する PASREG を使用すること、アトラス社との契約においては学会が主体となることが承認された。
- 今後の 2013 年度理事会開催日について理事会メーリングリストを通じて日程調整を行うこととした。

以上